熊谷 人権教育ニュース

第40号
令和8年
3月31日

編集・発行　熊谷市人権教育推進協議会

思いやり　言葉や文化を　超えてゆく

標語　熊谷西小学校5年　大木愛斗 さん

令和7年度　ハートフルセミナー

「人権問題研修会・指導者養成講座」開催

受講者数延べ 813人　（会場：江南総合文化会館ピピア）

1月20日
松本淳一郎 氏



1月27日
奥木 幹夫 氏



2月7日
林家 木久蔵 氏



	第１回	第２回	第３回
日　　程	令和8年1月20日（火）	令和8年1月27日（火）	令和8年2月7日（土）
演　　題	発展途上国でのJICA支援活動 ～共生社会の実現に向けて～	暮らしの中の人権 ～同和問題とは～	木久蔵流～笑うが一番～ 笑いを通じて人権を考える
講　　師	国際協力コンサルタント 松本 淳一郎 氏	埼玉県人権・男女共同参画課 奥木 幹夫 氏	落語家 林家 木久蔵 氏
受講者数	270名	240名	303名

人権教育研究委嘱校の取組　　熊谷市立妻沼小学校

児童の発達段階に応じた、社会でいきる人権感覚の育成

～「知・徳・体」のバランスのとれた学力の育成を通じて～

❶ 研究の流れ

本校では、熊谷市教育委員会より人権教育の研究委嘱を受け、令和６・７年度の２年間にわたり研究を進めてきた。校訓・学校教育目標「まじめ まめ まろく」の実現に向け、「学習活動づくり」や「人間関係づくり」と「環境づくり」とが一体となった取組を行うことで、人権感覚の育成が図られ、互いの相違を認め合い、多様に輝く児童が育成できると考え、研究主題を設定した。

❷ 研究の具体的な実践

（１）授業研究部

○主体的・対話的な学びを意識した誰にでもわかる授業の実施

○学年や性別等の枠を越えた、多様な集団での活動

（２）人権教育推進部

○人権感覚を高めるための環境の整備

○児童の人権、学習に関する実態把握と分析

❸ 研究の成果と今後の取組

多様な考えを尊重しつつ、自分の考えを深めていこうとする協働的な学びの充実や、振り返りの明確化により、子ども達が自分の学びの深まりを実感することができ、諦めずに取り組もうとする姿勢や自分にもできるという自信、つまり自己効力感の向上につながってきていることがわかった。また、たてわり活動や学級活動を充実させたことで、他者と豊かな関係を築き一人一人の良さを認め合おうとする人権感覚の高まりにもつながった。今後も児童が成功体験や周囲から認められる経験を積み重ねられるよう、学校と地域が連携・協働して取組をおこなっていく。





© 熊谷市

令和7年度 ハートフルセミナー「人権問題研修会・指導者養成講座」受講者の感想を紹介します。

令和８年１月20日

○ 自分の中の常識が異文化では違う、そんな当たり前のことを気づかせていただきました。

○ 違いを認めることが、差別をなくすためのスタートラインということに気付かされた講座でした。

○ 人のために働く人が、ここ（セネガル）にもいるのだなと、つくづく思いました。自分の利益のためでなく、他人のため、多くの人々のため、他国のために動くことは、個人の力量を高め、人格を深め高めることになるのだなあと実感しました。

令和８年１月27日

○ 普段のなにげない言葉によって他人の人権を侵害しているかもしれないので言葉に気を付けようと思います。

○ それぞれの人権課題を正しく理解し、先入観を持たない、命の尊さを知る、ともに生きる、自尊感情を育てる、ステレオタイプに気づく、気持ちを伝えるー「理解する」こと、「行動する」ことを心にとどめていきたいです。

○ 日頃から「寝た子を起こすな」という言葉に同感していましたが、大事なのは正しい知識を持つことだと理解しました。

令和８年２月７日

○ たくさん笑いました。人権と落語…?とはじめは思いましたが、うまく掛け合わせて講演をしてくれたと思います。このセミナーに参加して人生観が変わった気がします。

○ 笑いの力は偉大なんだなぁと思いました。さまざまな人権問題があると思いますが、一人ひとりを尊重してよりよい世の中になると良いと考えます。

○ 本日の木久蔵さんのように、ストレスの多い社会の中にいて笑いを良い方向に使って空気をやわらかくすることは、とても良いことと思いました。気づかいと気働き、大事にしたいです。



人権クイズ ～わかるかな？～



Q1 ブルーリボン運動は、何を目的とした活動のシンボルですか？

A：環境保護　B：児童虐待防止　C：北朝鮮による日本人拉致被害者の救出

Q2 令和7年11月に東京2025デフリンピックが開催され、全21種目が実施されました。次のうち、東京2025デフリンピックの開催種目でないものはどれでしょうか？

A：ボウリング　B：ボッチャ　C：オリエンテーリング　D：バレーボール

じんけんクイズの答えは次ページ下段にあります。

人権作文集「じんけんくまがや」の活用を
―資料専門委員会―

資料専門委員会では、市内児童生徒による人権作文集「じんけんくまがや」を毎年作成しています。
どの作品も、児童生徒の考えや思いが素直に述べられており、人権感覚を育み人権意識を高める上で活用していただきたい資料です。
この人権作文集が大いに活用されることを期待し、作品の中から一編を紹介します。

ゲームの中のいじめに気付いたわたし　中１

私はゲームが好きだ。特に、友達と一緒にオンラインで協力しながら遊ぶゲームが楽しい。学校が終わって家に帰ると、ボイスチャットをつないで、みんなで笑いながら遊ぶことが毎日の楽しみだった。そんなゲームの世界で、私は人権について考えることになるきっかけに出合った。

ある日、いつものように友達とチームを組んで遊んでいると、見知らぬプレイヤーがチームに加わった。その人は、操作に慣れていない様子で、チームの動きにもついていくことができなかった。間違った場所に行ってしまったり、ルールをよく分かっていないような行動を取ったりしたために、試合に負けてしまうことが何度かあった。

すると、友達の一人がチャットで「まじで下手すぎ。」「何してんの。」と強い言葉でその人を責めはじめた。他の子も「これはわざと。」「足引っ張ってるだけじゃん。」と笑いながら同じような言葉を続けた。

私は何も言えなかった。ただ、その場の空気に流されて、止めることもせずに黙っていた。すると、そのプレイヤーは、何も言わずに試合の途中でゲームを抜けてしまった。その後も何日か遊んでみたけれど、その人がまた現れることはなかった。

私は、そのことがずっと心に残っていた。「ただのゲームだし、仕方ないよね。」と思おうとしたけれど、本当にそうだったのか、自分の中で答えが出なかった。そしてある日、その人のプロフィールを何気なく見てみた。そこには、たった一言だけメッセージが残されていた。「楽しく遊びたかっただけなのに、ごめんなさい。」

その言葉を見たとき、私は胸がギュッと締めつけられるような気持ちになった。きっと、あの人も私たちと同じように、楽しく遊びたくてゲームに参加しに来たのだ。それなのに、少し慣れていなかっただけで責められ、笑われ、何も言い返せないまま姿を消してしまった。

私は、その人のことを直接傷つけるようなことは言わなかった。だけど、何も言わずにその場を見ていた私の態度も、同じようにいけなかったのだと思う。「自分は言っていないから関係ない。」と思うことが、どれほど無責任だったか、今ならよく分かる。

現実の世界では、誰かがいじめられていたら止めなければいけない。学校でもそう教えられてきた。でも、ゲームの中やネットの中では、顔が見えないせいか、みんなの言葉がきつくなりがちだ。目の前にいなくても、相手にはちゃんと心がある。たった一言で、深く傷ついてしまうこともある。

それから私は、自分の態度を変えることにした。知らない人がチームに入ってきたら、「よろしくね。」「分からなかったら聞いてね。」と声をかけるようにした。すると、その人が「ありがとう。」と返してくれることもあって、少しだけ心が通じた気がしてうれしかった。

最近では、前よりもみんなの言葉づかいが柔らかくなってきたように感じる。たった一人の行動でも、少しずつ周りに影響を与えられるのかもしれない。

私は、ゲームの中にも人権があると思う。人権とは、人が人らしく生きるための当たり前の権利。そして、相手の気持ちを思いやることも、その一つだと思う。ゲームの中だからこそ、言葉を選ぶこと、相手を大切にすることを忘れてはいけない。

もし、また誰かが傷ついている場面に出合ったら、今度こそ私は声をあげたい。「それは違うよ。」と勇気を出して言いたい。そう思わせてくれた、あのときのプレイヤーの言葉を、私はきっと一生忘れない。

じんけんクイズの答え　Q1：c　Q2：B

人権に関する意識調査

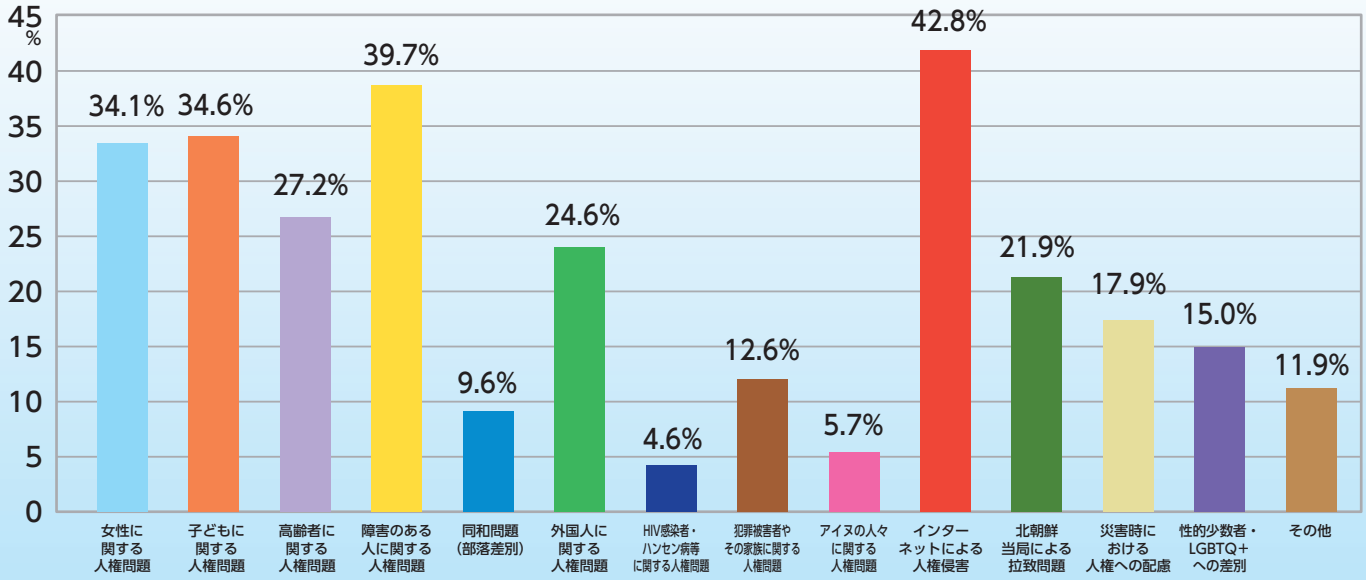
市内成人対象の意識調査より
調査専門委員会

調査専門委員会では、令和７年９月に市内成人(18歳以上)を対象に人権に関する意識調査を実施しました。その一部を紹介します。

なお、調査結果は熊谷市ホームページでも公開します。

熊谷市ホームページ
人権に関する意識調査
(第20回)

1. あなたが関心をもっている人権に関することがら※はなんですか。(複数回答可)



※埼玉県人権施策推進指針の重点的に取り組むべき分野別人権課題 14 項目

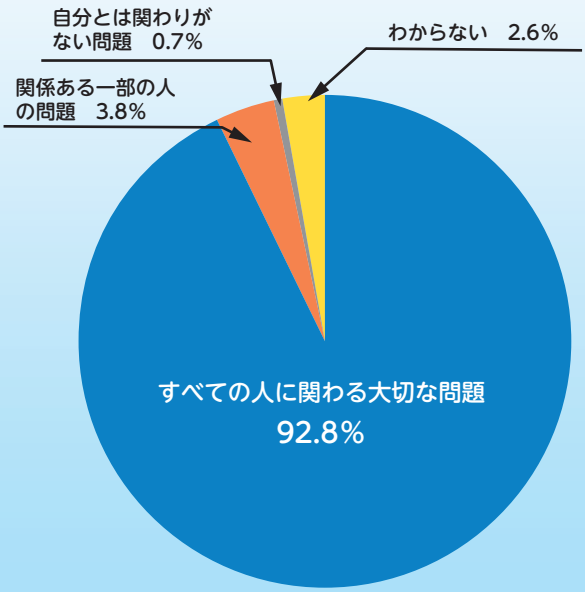
【考察】

○全体では「インターネットによる人権侵害」への関心が高い。

○前回調査 (令和 3 年度) と比べて「外国人に関する人権問題」と回答した人の割合が 10 ポイント近く増加した。

参考：調査 P10

2. あなたは、人権について、どのように考えますか。1つ選んでください。



【考察】

○全体では、「すべての人に関わる大切な問題」と回答した人の割合が92.8%であった。
前回調査(令和3年度)と比べて、5.2%増加した。人権問題を自分ごとと捉えている人が前回調査に比べて増加している。

○人権を尊重するまちづくりを目指し、市民が様々な人権問題の解決に向けて実践行動が起こせるよう人権教育・啓発活動を推進していく必要がある。

参考：調査P12